

2015年度ゆきとどいた教育を求める全国署名 教育全国署名・推進ニュース No. 1

発行日：2015年5月18日 発行：ゆきとどいた教育をすすめる会



5月14日

3月以降の教育全国署名 22,274筆を国会へ最終提出

2014年度の教育全国署名は771万9588筆

5月14日（木）ゆきとどいた教育をすすめる会は、2月27日の提出集会以降に届けられた教育全国署名(公立分)2万2274筆の署名の国会への最終提出行動を行いました。

紹介議員となっていたいただいた国会議員に日時をお知らせしたところ、国会開会中の多忙な中にもかかわらず、国会議員本人9名・秘書の代理出席3名の計12名(共産党9、民主2、生活1)のみなさんがかけつけていただきました。

主催者を代表して中村尚史全教中央執行副委員長は「橋下は、府知事になってはじめて35人学級をやめるなど教育つぶしを始めた。その大阪でも共同の広がりが出てきている。ゆきとどいた教育は一点共同の一つ。少人数の広がり47都道府県のすべてに広がっている」と35人学級を前進させるためのとりくみを全国に広げようと挨拶しました。



以下、国会議員の発言の要旨です(発言順)。

○玉城デニー（生活）

「子どもさん沖縄でも、貧困と教育の問題は重要、過疎と統廃合が進んでいる。あらゆる機会でのとりくみが大事だ」

○穀田恵二（共産）

「当たり前のことだが、教育というのはみんなで成長すること。学校の耐震化や水道のことなどインフラ整備でも、国会で頑張ります」

○宮本徹（共産）

「35 人学級の壁は財務省。財政審での『35 人以下学級は担任外の活用でできる』との主張自体には問題があるが、40 人学級に戻せとはいえない状況を運動で作り出している」

○清水忠史（共産）

「橋下の言う『子どもは恐怖心で育てろ』『子どもの頃からバクチ』、これは本来の教育ではない。子どもの個性に光を当てて、ゆきとどいた教育をしていくことが大事」

○本村伸子（共産）

「特別支援学校の過大・過密の問題は深刻。愛知県は財政力があるのに教育にお金をかけていない。子どもを国家のために利用させるのではなく、一人ひとりの個性が輝く教育を」

○梅村さえ子（共産）

「地域での運動にとりくんできた。蕨市は市独自

の教員をつけてくれて、小3の子は24人学級になっている。40人学級になるとき母親のネットワークでとりくんだ」

○田村智子（共産）

「財政審が教員削減を主張している。文科省からの新しい定数改善計画を出させることが重要になっている。共同のとりにくみをさらに広げることが重要」

○大平喜信（共産）

「国会での最初の質問は、全教からの資料も活用して高校授業料無償化の所得制限についておこなった。皆さんの代弁者となりがんばる」

○畑野君枝（共産）

「沖縄を視察した。普天間の小学校では体育の時に教師の声が聞こえない。安全・安心な学校が必要。皆さんの運動が国会での首相答弁等を引き出している。署名の力が大事」

また、ゆきとどいた教育をすすめる会の大山圭湖さん（企画委員：都教組）は、「子どもの貧困問題は深刻だ。中学校の修学旅行の積み立てをそもそもやらない子がいる。3年間の中でも大きな思い出になるのに……。また、親がダブルワークをやらないと生活ができない。健康診断を受けられずに末期ガンが発覚。子どもの卒業式に車いすで参加したが数日後に亡くなった」と子どもの貧困の実態と教育の無償化の必要性を訴えました。

全教は現在、2016年度政府予算にむけた文部科学省概算要求に対する要請署名（通称「えがお署名」）にとりくんでいます。文科省の概算要求に、「35人学級の前進」のための教職員定数改善計画を何としても盛りこませる必要があります。

また、6月地方議会での意見書採択運動にもとりくんでいます。「35人以下学級の前進」「高校無償化復活と高校生給付制奨学金の確立」「大学生給付制奨学金の創設」「特別支援学校の設置基準策定」の4項目です。それぞれの地域・組織の状況で項目を選択することが可能ですが、今年度最重点項目である「35人以下学級の前進」についてはすべての地方議会からの採択にとりくみましょう。

すべての地方議会から

「国の責任による35人以下学級の前進」

の意見書採択を！

